

国語⇒伝えたいことを明確にして話すように指導することで、発表場面では成果が見られた。思いや考えを、文章で詳しく書き表すことに課題が残り、簡単な言葉や単語で書いてしまう姿が見られる。

社会⇒実生活において「もしも」の状況を想定させながら、その施設や設備が必要な理由を考えられるような学習課題を取り入れることで、学習意欲を保って学習できた。学習のまとめなどで自分の考えを表現する機会を設けたが、的確にまとめる力にはまだ課題が残った。また、グラフや地図などの資料の読み取りに課題が残った。

算数⇒習熟度別学習により、理解が深まった児童が多く見られた。掛け算、割り算の筆算などの基礎的な内容に課題のある児童がいる。基礎基本の学習の繰り返し学習が必要である。

理科⇒実験や観察を生かし、主体的に学習に取り組むことができたが、知識の定着には、課題が残った。

I 大田区学習効果測定の調査結果と概要

- △：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点
- ≡：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点
- ▼：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語			社会			算数			理科			英語 B		
全体	△			▼			△			▼			△		
観点別	△	△	△	▼	△	≡	≡	△	△	▼	▼	▼	△	△	△
	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

1 教科全体

国語、算数では、正答率が目標値を上回った。国語・算数の活用の項目では、目標値をそれぞれ4ポイント以上上回る結果となっていることから、これまでの基礎学習を生かすことができるようになってきたことが考えられる。一方、社会・理科では、正答率が目標値を下回っている。今年度も継続して、基礎を固め、中学校以降の学習にも生かせるようにしたい。

2 観点別

国語・算数・英語では、全ての観点において、目標値を上回る結果であった。特に国語は、【報告する文章を書く】が、目標値を大きく上回る結果となった。

社会は、知識・技能の観点が下回り、特に【資料の読み取りから課題に対し判断すること】に課題が見られた。理科は、全ての観点において、目標値を下回る結果であった。

II 教科ごとの授業改善プラン

1 国語・社会・算数・理科

【国語】

国語では、全観点で目標値を上回っている。特に、漢字の読み・書き、指定された文章量で文を書くことでそれぞれ目標値よりも10ポイント程度上回っている。しかし、言葉の学習において和語、漢語等の知識・技能では、目標値を下回る結果となった。言語への理解を向上させるため、読書時間の確保、言葉の意味調べ等を取り入れた学習を行う。

【社会】

社会では、知識・技能の観点で下回っている。特に自動車をつくる工業では、資料をもとに読み取ったことを記述することが、目標値を 10 ポイント下回った。読み取ったことを自分の言葉で表現したりまとめる力を付けている必要がある。また、基礎的な知識量が向上するように、重要な言葉などの反復指導を続けていく。

【算数】

算数では、全観点で目標値を上回っている。特に、小数の計算、立体と体積、単位量当たりの大きさで、それぞれ目標値よりも 10 ポイント上回っている。学年の傾向として、計算領域よりも図形領域に対しての苦手意識をもつ児童が多く、得意としている児童との差が大きい。また、計算の仕方を説明する記述問題を苦手としている児童が多い。そのため、基礎的基本的な問題を反復して解くことで苦手意識を克服すること、計算の仕方をノートに記述すること、具体物の提示はもちろん、ICT の積極的な活用を行っていくこと等を取り入れて授業を行う。

【理科】

理科では、全体的に目標値を下回る結果となった。特にふりこのきまりでは、全ての設問で、目標値を下回っている。苦手意識をもっている児童が多いので、まず、導入時に資料や具体物を提示するなど、興味・関心を高める工夫を行う。基礎的な知識に不足があるので、重要な言葉や実験方法等、細かく反復指導を行い、基礎的基本的な力を身に付けさせたい。

2 音楽・図工・家庭・体育・外国語

	児童の実態	おおむね良好：○ 改善が必要：△	授業改善プラン
音楽	●知識・技能 ・自然で響きのある声を目指して豊かな声量で歌うことができる。 ・基本的な奏法を身に付けてパートの役割を意識した演奏ができる児童と、演奏の技能に自信が持てない児童がいる。 ●思考・判断・表現 ・音楽の要素の変化に気づいて曲想を感じ、想像豊かに鑑賞できる児童が多い。 ・技能など他の能力を同時に使って思考や表現をすることには、努力を要する傾向にある。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・上級生らしくよりよい演奏発表になるように意欲をもち協力できる児童が多いが、演奏に取り組むこと自体に努力を要する児童もいる。	○ △ ○ △ △	・基礎的な技能がより定着するよう、継続的意識づけ、演奏に取り組む場を設定する。 ・余裕をもって思考や表現の学習ができるよう、技能面で無理のない教材を選定する。 ・意欲のある児童の活躍の場を設定するとともに、友達と協力して練習に向かうことができるよう、支援する。
図工	●知識・技能 ・道具の正しい扱い方を身に付けようとしていたり、新しい技法を知り、すすんで取り入れようとしていたりしている。 ●思考・判断・表現 ・自分の思いや考えを言葉で表現し、伝えることが苦手な児童が多い。 ・友人の作品のよさを見付けられる児童は多いが、それを言葉で表現することが苦手な児童が多い。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・色や形に関心をもち、粘り強く取り組む児童が多い。	○ △ ○	・技法に対して、児童が分かりやすい説明の仕方を考え、指導する。 ・作品のめあてを意識させ、それにあった振り返りや鑑賞ができるように指導する。また、鑑賞に適した語彙を提示する。 ・児童が興味をもち、意欲的に取り組み、深く追究できる題材を用意する。

家庭	●知識・技能 ・家庭科で学習したことを土台として家庭生活においても具体的に生かすことが大切であることに気付いた児童が多い。 ●思考・判断・表現 ・日頃の生活において、学習したことを活かした生活の工夫等の発展的活動までできている児童もいるが、生かせていない児童もいる。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・学習したことについて家庭生活中で具体的に実践し、喜びを味わえている児童が多く見られるようになっている。	○ △ ○	・実際の生活に生かせる学習内容・計画を立てる。
体育	●知識・技能 ・運動能力に差があり、運動自体が苦手な児童もいる。また基礎体力がしっかりと構築されておらず、体の使い方など技能面が、なかなか定着できない児童も多い。運動のポイントについての理解を深めようと挑戦する心は徐々に育ってきている。自分の課題を明確に捉えることができるようにさせたい。 ●思考・判断・表現 ・運動のポイントや仕組みを見付けさせたり、考えさせたりすることで、自分の課題を明確にし、「何を・どのように」練習すればよいか、考えることができてきている。自身を振り返り、的確に次回への目標や、必要な動きを考えることができる児童が見られたが、まだどのように解決するのかを考えることが難しい児童もいる。ペア学習を多く取り入れるなど、授業展開を工夫していきたい。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・運動に対する前向きな姿勢が見られるようになった。できないことをそのままにせず、必要なことを見つけ、友達と協力し合って取り組む姿が増えた。	△ △ ○	・身に付けた知識を生かし、運動と結び付けながら繰り返し運動させることが必要である。主運動を行わせる前に、ランニングやストレッチ、補強運動などを毎授業内で取り入れ、必要な基礎的な動きを身に付ける。 ・自分の動きを動画で撮影し、手本動画と比較し、課題を見付け、取り組めるようにする。
外国語	●知識・技能 ・単語や文法などを正しく使える児童が多くなった。 ●思考・判断・表現 ・自分の考えや思いを言葉で振り返ったり、表現したりする学習を取り入れ、発表することへの抵抗感が少なくなった。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・学習した単語、文法を使い、積極的に使い友達と関わることをできている。	○ ○ ○	・自信をもって発表できる環境づくりや、ゲームなどを取り入れて英語で表現することの楽しさを味わえる活動を取り入れる。